

令和8年度

徳島県小学校教育課程研究集会

社会科部会

令和8年7月23日

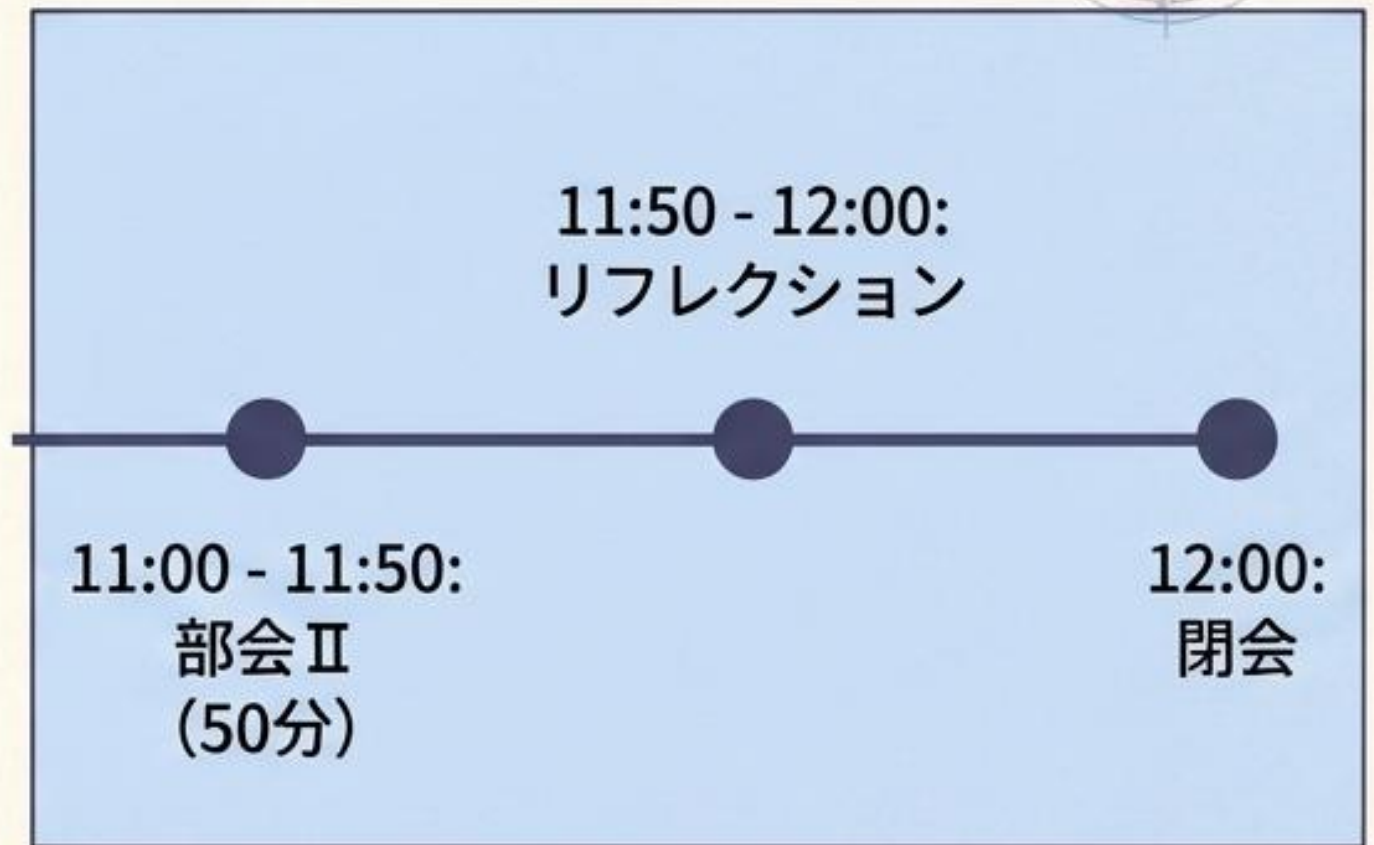
徳島県教育委員会 義務教育課

本日の日程

Session I



Session II



本集会を支える柱と最終目標

主体的・対話的で深い学びの実現

学習指導要領
における各教科
の実施上の
諸問題解決

GIGAスクール構
想（一人一台端
末）を活用した
学びの充実

一人一台端末が拓く、新しい社会科学学習



【情報の収集・分析】
地域の資料や統計データ
への直接アクセス



【思考の可視化】
デジタル地図や年表を用
いた思考の整理



【協働的な学び】
児童同士の意見共有と
多角的な視点の育成

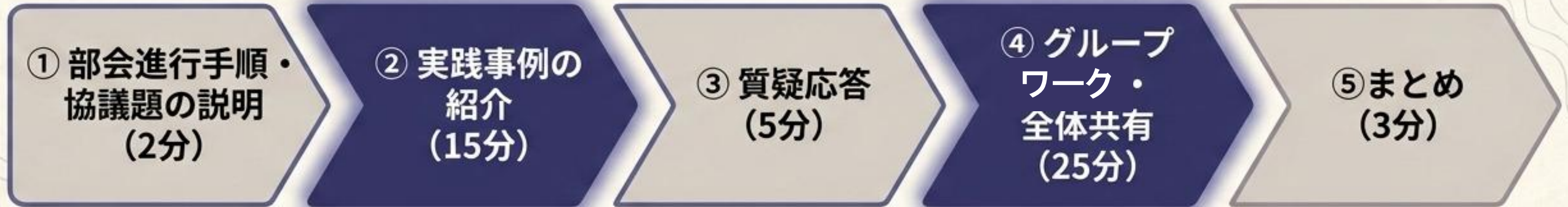
部会Ⅱ (11:00 - 11:50)

本年度の共通課題

「生成AIを活用した魅力ある授業づくり」

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

部会Ⅱ 進行手順



教育現場を支えるAI活用ガイド：授業準備から評価まで

教員がAIを「パートナー」として活用し、業務効率化と生徒の学びの深化を両立する方法



授業準備：教材作成の効率化



指導案と導入 アイデアの作成

単元に合わせた興味を惹く導入案をAIが即座に提案します。



習熟度別の 読解・問題作成

1つの題材から習熟度に合わせた教材を瞬時に書き分けます。



小テスト・クイズ の自動生成

解説付きの4択クイズを作成し、学習アプリへスムーズに連携できます。



授業と評価：学びの深化と分析



対話による 思考の「壁打ち」

AIが反対派や相談相手となり、生徒の論理的思考やアイデアを深めます。



個別学習を支 える「副担任」

生徒が自分のペースで質問でき、教員の手が回らない部分を補完します。



評価基準の作成と 傾向分析

ルーブリック作成や振り返りシートの要約により、次の一手を可視化します。



教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読み手として、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生成AIの概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの。



1. 生成AIについて

生成AIの概要



- 生成AIとは、文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルにもとづくAIの総称
- 汎用的なサービスだけでなく、様々な提供形態・提供主体が出現し、教育分野にも導入
- 様々なリスクの存在が指摘される一方で、技術的な対策も進展

2. 基本的な考え方

人間中心の利活用



- 生成AIを有用な道具になり得るものと捉え、出力を参考の一つとして、リスクや懸念を踏まえた上で、最後は人間が判断し、責任を持つことが重要
- 学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用
- 学びの専門職としての教師の役割が一層重要

情報活用能力の育成強化



- 生成AIの仕組みの理解、学びに生かしていく視点、近い将来生成AIを使いこなすための力を、各教科等の中において意識的に育てていく姿勢は重要
- 生成AIが社会生活に組み込まれていくことを念頭に、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させていくことが必要

3. 学校現場において押さえておくべきポイント

教職員が校務で利活用する場面



- 校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される
- 教職員自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要
- 生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用

児童生徒が学習活動で利活用する場面



- 発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき。その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要
- 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたり往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める

教育委員会等が押さえておくべきポイント



- 教育委員会が主導して制度設計や方向性を示すことが重要
- 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じることが必要であり、一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない
- 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要

共通して押さえておくべきポイント



- 安全性を考慮した適正利用
- 公平性の確保
- 情報セキュリティの確保
- 透明性の確保、関係者への説明責任
- 個人情報・プライバシー著作権の保護

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性 (2) 現状の課題



オ. デジタル学習基盤の活用に関する課題

- 社会科の教師におけるICT端末の活用場面が、「共通の資料を大きく提示する場面」や「インターネットで自由に調べる場面」が中心となっており、論点整理でも指摘されているように、ICTの活用が教具的発想に留まっている状況が見られる。（中学校学習指導要領実施状況調査（R5年度））
- また、ブラウザにAIが実装され、検索結果の最上部にAIによる要約が表示される中、その内容を単純にコピー＆ペーストしている児童生徒に対して、適切な指導がなされていない実態もみられる。収集した情報の信頼性を確認する技能を一層高めるとともに、最終的な評価の段階でAIに頼って自らの思考を経ない成果物は通用しないような評価の工夫をしていくことが、喫緊の課題となっている。

令和8年6月26日
文部科学省
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料2
社会、地理歴史、公民
WGの取りまとめについて
より



1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性 (3) 改善の方向性

イ. 課題を追究・解決する学習の充実

- 現代社会では、生成AIやSNSの普及により、膨大な情報が容易に得られる一方で、その真偽や信頼性を適切に判断する力が求められている。
- このため、資料や情報を収集するだけでなく、その真偽や意図、背景等をこれまで以上に把握し、その信ぴょう性等を検証し、根拠に基づいて自らの考えを形成する力を育成することが必要である。
- さらに、自らの考えを批判的に見直しながら、他者と対話し、より適切な判断につなげる学習過程を充実することで、社会科等における深い学びの実現を目指す必要があることから、「社会的事象等について調べまとめる技能」の見直しを行う。

令和8年6月26日
文部科学省
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料2
社会、地理歴史、公民
WGの取りまとめについて
より

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方

(1) 課題を追究・解決する学習の充実



イ. デジタル学習基盤を活用した学習の充実

- 社会科等におけるICT活用を、「課題を追究・解決する活動」において、**学習の質の高まりを促進するために必要な基盤として位置付け、以下の学習を踏まえて見直す。**
 - a 課題把握：社会的事象の把握に向けた統計資料等の検索・活用等
 - b 課題追究：適切な根拠資料や原典資料等の収集・分析等グループ内での活発な議論のための資料の共有等
 - c 課題解決：まとめレポートの作成や発表・共有等
- なお、児童生徒が主体的に学習を調整できる環境を整え、その実現を図っていく上でも、デジタル学習基盤は重要であることを認識し、適切に活用した学習活動の充実を図る必要がある。

令和8年6月26日
文部科学省
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料2
社会、地理歴史、公民
WGの取りまとめについて
より

5. 学習・指導・評価の改善充実のあり方

(1) 課題を追究・解決する学習の充実



ウ. AI活用の考え方

- 社会科におけるAI活用においては、最終的には生徒が自ら考え、判断し、成果物に内容を自らの言葉で説明し、自ら責任を持つという考え方の下、「社会的事象等について調べまとめる技能」の「情報の妥当性確認」に関する技能で示した視点も活用しながら、各学校段階や科目・分野において、必要な資質・能力を身に付けることができるかどうかという視点で、課題を追究・解決する学習活動を展開すること、それらの評価方法の改善を図ることを当面の基本的な考え方とする。
- 具体的には、最終的な評価の段階でAIに頼って自らの思考を経していない成果物は通用しないような評価の工夫をしていくことが、喫緊の課題であり、例えば、口頭試問の要素を取り入れる、GIGA端末のアンケートソフトのテストモードを活用して、ブラウザ閲覧や活用ができない環境下で自らの考えを根拠をもって記述させることなどが考えられる。

令和8年6月26日
文部科学省
社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ
資料2
社会、地理歴史、公民
WGの取りまとめについて
より

生成AIを活用した実践事例



教師が活用する場合①: AIで単元構成案を作成

(1) 教師の考える設定を決める

 新しい Gem

名前

説明

カスタム指示 ①

例: 天然芝と在来植物を専門とする園芸家として、水やり不要の庭づくりを支援する。地域や気候、地域固有の植物を考慮した情報を提供する。知識豊富な専門家として、気さくで親しみやすい態度で対応する。

デフォルト ツール ⓘ

デフォルト ツールがありません ~

A

am

私は小学4年生の担任です。

美馬市の小学校に勤務しています。勤務校は小規模校であり、学級は単学級です。

社会科の学習で、地元の徳島県についての学習を計画しています。徳島県の良さと課題の両方を提示できるような学習内容にしたいと考えています。

社会科に対する興味があまりない児童が多いため、興味を引く内容が必要になります。

準教科書に倣って、全12時間構成を考えます。

一部表示

生成AIを活用した実践事例



教師が活用する場合①: AIで単元構成案を作成

(2) 授業の概略を考えて、案の叩き台を作成する

この問いがなぜ良いのか、そしてこの問いを軸に3時間をどのように構成すれば子どもたちが主体的に学べるか、具体案をご提案します。

全12時間のうちの「私たちの県のまちづくり」(全3時間)の単元構成を考えます。

題材として地元の「美馬市」を扱います。

「美と健康の町」をテーマにまとめさせるのに、「なぜ美馬市は『美と健康の町』と売り出しているのか」という発問をしようと思いますが、どうでしょうか。

なぜこの発問が良いのか？(3つの理由)

1. 「当たり前」への疑問(ズレ)を生む
子どもたちにとって、住んでいる(あるいは身近な)美馬市は「いつもの田舎の風景」かもしれません。そこに「なぜわざわざ『美と健康』なのか？」と問いかけることで、「そういえば、なんでだろう？」という探究のスイッチが入ります。
2. 多角的な要因(地理・歴史・産業)に結びつく
この問いを解き明かすには、「美馬市の豊かな自然(水や空気、傾斜地での雑穀栽培など)」や「歴史(うだつの町並みの文化的価値、伝統的な食文化)」、「観光・産業(薬草、ブルーベリー、ヘルスツーリズム)」など、多角的な視点が必要になります。社会科の「まちづくり」の学習として非常に深みが出ます。
3. 「未来の提案」につなげやすい
「なぜ？」を解決した後に、「じゃあ、これからどうアピールしていく?」「自分たちにできることは?」と、未来に向けた子どもたち自身の提案(アウトプット)へ自然に移行できます。

「美と健康の町」を紐解く3時間の単元構成案

全3時間という限られた時数のなかで、「課題設定(出会い)」「追究(調べる)」「まとめ・表現(発信・提案)」をシンプルに位置付けた構成です。

生成AIを活用した実践事例



教師が活用する場合①: AIで単元構成案を作成

(2) 授業の概略を考えて、案の叩き台を作成する



内容を吟味し、修正を加えていく。
※AIに対して壁打ち(再質問)する。

📍 単元構成案 (全3時間)

「なぜそのテーマなのか (現状把握)」→「どんな取り組みがあるか (調査・分析)」→「これからどうしていくべきか (未来への提案)」という3ステップで構成します。

【第1時】 出会う・課題をもつ

- **目標：** 美馬市が「美と健康の町」を目指している理由（背景）を知り、探究の問いをもつ。
- **活動：** 美馬市の基本データ（豊かな自然、高齢化の現状など）を見たり、市が発信している「美と健康」に関するパンフレットや動画を眺めたりして、現状を把握する。

【第2時】 調べる・整理する

- **目標：** 「美」と「健康」に関わる美馬市の具体的な取り組みや地域資源を調べる。
- **活動：** 「食べる（薬草、みまから、美馬和傘など）」「動く・癒される（美馬温泉、剣山周辺のアウトドア、うだつの町並み散策）」などの視点から、市が行っているまちづくりの工夫や、そこで働く人々の思いを調べる。

【第3時】 まとめる・発信する（未来を考える）

- **目標：** 調べたことをもとに、「美と健康の町」としての美馬市をさらに盛り上げるためのアイデアをまとめる。
- **活動：** 自分たちが「広報課の職員」や「観光大使」になったつもりで、美馬市の魅力をアピールするキャッチコピーや、新しいまちづくりのアイデア（特産品を使った新メニューや体験ツアーなど）を提案・発表する。

生成AIを活用した実践事例



教師が活用する場合①: AIで単元構成案を作成 (3) 叩き台をもとに授業案を作成する

- **【第1時】出会いと疑問の共有 「美馬市のイメージと、まちづくりのキャッチコピー」**
- **めあて:**
美馬市が目指す「美と健康の町」の取り組みを知り、学習問題をつくろう。
- **展開:**
 - 美馬市のいいところや、自慢できるものを出し合う(自然、うだつ、美味しい食べ物など)。
 - 美馬市が「美と健康の町」というスローガンを掲げ、様々な取り組み(健康ウォーク、美と健康をテーマにした特産品開発、ヘルスツーリズムなど)をしていることを写真やパンフレットで紹介する。
 - **【核となる問い】「なぜ美馬市は『美と健康の町』と売り出しているのだろうか？」**をクラス全体の学習問題として設定する。
 - 予想を立てる(「自然がきれいだから?」「体にいい食べ物があるから?」「お年寄りが元気だから?」など)。



教師が活用する場合①: AIで単元構成案を作成 (3) 叩き台をもとに授業案を作成する

- **【第2時】情報の収集と整理(探究) 「美馬市の『美』と『健康』のひみつを探ろう」**
- **めあて:**
美馬市の自然・歴史・産業の様子から、「美と健康」のつながりを調べよう。
- **展開:**
 - 学級の実態に合わせて、資料(市のホームページ、観光パンフレット、ニュース記事など)をもとに、以下の3つの視点からグループや個人で調べる。
 - **【自然・歴史の視点】**
 - 吉野川の清流や、剣山系の豊かな自然。
 - 日本百名山や美馬の美しい景観(視覚的な「美」)。
 - **【食・産業の視点】**
 - 地元で採れる体に優しい食材(みまから唐辛子、ブルーベリーなど)。
 - これらを使った「美と健康」にいいグルメの開発。
 - **【暮らし・まちづくりの視点】**
 - 市民が健康に暮らすための健康づくりイベント。
 - 都市部からリフレッシュしに来る人向けの「ヘルスツーリズム(心身の健康を売りにした観光)」。
 - 調べたことを「自然」「食・産業」「暮らし」などの視点に整理して共有する。

生成AIを活用した実践事例



教師が活用する場合①: AIで単元構成案を作成 (3)叩き台をもとに授業案を作成する

- **【第3時】まとめと私たちの提案 「私たちが発信する『美と健康の美馬市』」**

- **めあて:**

美馬市が「美と健康の町」として取り組む理由をまとめ、これからの美馬市について考えよう。

- **展開:**

- 「なぜ売り出しているのか」の結論をまとめる。

- (まとめのイメージ: 美馬市には、昔から豊かな自然や体にいい食べ物などの「お宝」がたくさんある。それを生かして、市民が元気に暮らし、市外からもたくさんの人に来てもらうために『美と健康の町』としてアピールしている。)

- **【表現・提案活動】**

- 自分が「美馬市の観光大使」になったつもりで、美馬市の「美と健康」をPRするキャッチコピーや、1ページのパンフレット(または1枚のスライド)を作成する。
- 例: 「食べて健康! 美馬市のごちそうマップ」「心も体もきれいになる、美馬市おすすめツアー」など。

生成AIを活用した実践事例



教師が活用する場合②: AIを活用して、一次評価を行う。

美馬市が「美と健康の美馬市」として取り組む理由をまとめた。

この文章を、「美馬市の取組について多面的に分析し、美馬市がもつ良さに触れながらまとめることができる。」という評価規準に則って評価してください。

「美馬市には、昔から豊かな自然や体にいい食べ物などの「お宝」がたくさんある。それを生かして、市民が元気に暮らし、市外からもたくさんの人に来てもらうために『美と健康の町』としてアピールしている。」



評価結果：【おおむね満足できる（A評価）】

【評価規準】

美馬市の取組について多面的に分析し、美馬市がもつ良さに触れながらまとめることができる。

✳ 評価できるポイント（規準を満たしている点）

- 「良さ（お宝）」への言及（十分クリア）：
「昔から豊かな自然や体にいい食べ物などの『お宝』がたくさんある」と記述しており、美馬市がもつ固有の良さ（自然環境・食文化）にしっかり触れられています。
- 多面的な分析（クリア）：
まちづくりの目的について、単に「健康になる」だけでなく、「市民が元気に暮らす（内向けの健康・福祉）」という視点と、「市外からもたくさんの人に来てもらう（外向けの観光・産業振興）」という2つの異なる視点（多面的）から捉えることができます。

【point】

AIによる評価支援をもとに、
教師自身が最終評価を行う

生成AIを活用した実践事例



児童が活用する場合①: 調べている最中に出てきた、わからない語句をAIに質問する

「ヘルスツーリズム」って何？小学4年生に分かるように説明してください。



am・カスタム Gem

「ヘルスツーリズム」って、ちょっとむずかしい言葉だね。

これは、英語の「ヘルス（健康・元気）」と「ツーリズム（旅行）」が合体した言葉なんだ。

かんたんに言うと、「お出かけや旅行をして、心も体ももっと元気になること」だよ！

生成AIを活用した実践事例



児童が活用する場合②: 調べる内容を考えているときに、AIに問い直す

美馬市における「美と健康」について、食べ物以外の視点から考えたいけど、どんな視点がありますか。

am・カスタム Gem

美馬市の「美と健康」を考える際、食べ物（食）以外にも、社会科の授業で4年生が「おもしろい!」「自分たちとつながっている!」と思える素晴らしい視点がたくさんあります。

実は美馬市は、行政（市役所）や地元企業が一体となって、全国的にもユニークな「美と健康」のまちづくりを進めている先進的な地域です。子どもたちが調べやすく、ディスカッションが盛り上がる**4つの視点**を整理しました。

生成AIを活用した実践事例



児童が活用する場合③: **自分の書いた振り返りの記述について、
AIに良い点や改善点のフィードバックを受ける**

美馬市が「美と健康の美馬市」として取り組む理由を
まとめた。

この文章を読んで、良い点や改善点を教えてください。

「美馬市には、昔から豊かな自然や体にいい食べ物などの
「お宝」がたくさんある。それを生かして、市民が元気に
暮らし、市外からもたくさんの人に来てもらうために
『美と健康の町』としてアピールしている。」



生成AIを活用した実践事例



美馬市が「美と健康の美馬市」として取り組む理由をまとめた。

この文章を読んで、良い点や改善点を教えてください。
「美馬市には、昔から豊かな自然や体にいい食べ物などの「お宝」がたくさんある。それを生かして、市民が元気に暮らし、市外からもたくさんの人に来てもらうために『美と健康の町』としてアピールしている。」

児童が活用する場合③: 自分の書いた振り返りの記述について、AIに良い点や改善点のフィードバックを受ける

良い点（この文章の素晴らしいところ）

① 「目的」が2つの方向（内側と外側）で整理されている

まちづくりの目的を、以下の2つの視点で整理できている点が非常に論理的で素晴らしいです。

- **市民のため（内側）**：「市民が元気に暮らし」
- **市外の人（観光客）のため（外側）**：「市外からもたくさんの人に来てもらうため」
4年生の段階で、まちづくりには「そこに住む人」と「外から来る人」の両方が大切であると気づけているのは大発見です。

② 「今あるもの（お宝）」と「これからのアピール」が結びついている

「昔からある豊かな自然や食べ物（お宝）」を「生かして」アピールしている、というつながりが書けています。ゼロから新しいものを作るのではなく、**今ある地域の良さを磨くのがまちづくりなんだ**、という本質を捉えられています。

③ 言葉選びが温かい

「お宝」という言葉を使うことで、美馬市に対する愛着や、地域の良さを肯定的に捉えられていることが伝わってきます。

改善点（さらによくするためのヒント）

もしこのまとめをもとに、ノートに書く文章をブラッシュアップさせたり、発表スライドの原稿にしたりする場合、以下の点を少しプラスするとさらに説得力が増します。

① 「美」と「健康」がどう結びついているか、少しでも具体的にする

現状の文だと、「自然や食べ物」がどうして「美と健康」につながるのかが少し省略されています。

○ 改善のヒント：

「体にいい食べ物」が「健康」につながることは分かりやすいですが、「美」はどこから来ているのでしょうか？

例えば、「美しい自然」や「美しい町並み」など、**何が『美』なのかが1言入ると、スローガンとのつながりがよりはっきりします。**

② 「お宝」の具体例を少しでも増やす（学級の探究に合わせて）

授業の中で「うだつの町並み」や「おじいちゃんおばあちゃんのお化粧（福祉）」、「大塚製薬などの工場」といった「食べ物・自然以外の視点」を学んでいた場合、それらも「お宝」の中に少し含められると、さらに多面的なまとめになります。

生成AIを活用した実践事例



参考：中学校社会科における実践事例より 勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

生成 A I の活用実践（教師）

＜＜生成 A I を活用するメリット＞＞

＊教材研究の効率化

- ・資料整理や評価規準の精緻化
- ・授業構造の論理的整合性の確認
- ・A I の助言を複数回吟味し、教師の専門性で補正
→教材研究の質と速度が大幅に向上

生成AIを活用した実践事例



参考：中学校社会科における実践事例より 勝浦町立勝浦中学校 大谷啓子教頭先生
(前 鳴門教育大学附属中学校 教諭)

生成A I の活用実践（生徒）

○「見通し → 課題解決 → 振り返り」の学習過程を経て

＊ A I の助言を踏まるとことで、
根拠の明示や用語の適切化、論理の一貫性が向上

【point①】
社会的認識力の向上

＊ 特定の視点による記述 → 複数視点や自分事化の記述

＊ 自分の思考の過程が記録され、ポートフォリオとしても活用できる

【point②】
社会の見方が変わった
たとの自己評価

グループワーク・全体共有（25分）

以下の2つの視点から、自校での展開を見据えた意見交換を行いましょう。

テーマ1：「AI活用の実践例」

自校の社会科授業において、どのような場面でAI活用が期待できるか。

テーマ2：「推進上の課題」

実際の運用にあたり、社会的・倫理的配慮や環境整備においてどのような課題が想定されるか。

リフレクション・閉会（11:50 - 12:00）

**本日の学びを振り返り、
明日からの社会科授業に向けた
次の一步を描きましょう。**

12:00 閉会

ご参加ありがとうございました。